

# ゆりかご だより



2019年6月発行 No.28

あじさいの咲く季節になりました。5月の後半は記録的な暑さになり、また朝夕と昼間の気温差も大きく、体調を崩すお子さんが増えてきました。天候不順なこの時期、服装で上手に調節し、睡眠・休息をしっかりと快適に過ごしましょう。病児保育室ゆりかごでは感冒や咽頭炎、気管支炎のお子さんのご利用が多く、夏に流行するヘルパンギーナや手足口病のお子さんも来られています。熱や口内炎・その他の症状などでお子さんの食欲が落ちると、保護者の方が「何を用意したらいいの？」と悩まれることも。今回は食べ物についてのお話です。

## 体調に合わせた食事の工夫（ゆりかごからのお願い）



昼食・ミルク・飲み物・おやつ2回分は、すべて持参していただきます。（市販のものでも可）

冷蔵庫で保管して、電子レンジで温めます。

●特にアレルギーのあるお子さんはおやつを含めて普段食べ慣れたものをご用意ください。

●食中毒対策も忘れずに。



食欲がなくて食べないんです

食べられない時も、雰囲気盛り上げたり食べたいものを選べるようにしたりすることで、少しずつ食べられることもあります。時間にこだわらず、食べられる時に無理せず勧めていきますので、好きなものを何種類かご用意ください。

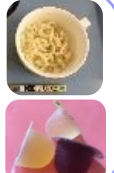


どんな食べ物を用意したらいいの？

特に制限はしていません。水分を多めに、お子さんが普段好きな食べ物を、何種類か、少し余裕を持ってご用意ください。



のどの炎症や、口内炎ができているときなどは、薄味で柔らかいうどんや、のど越しのいいゼリーなどが食べやすいようです。



嘔吐・下痢症状のある時は、お子さんが食べたいものでいいですが、糖分の多い飲み物や、炭酸飲料、脂肪分の多いものは控えましょう。



## 看護師より

～発熱時に気になる熱性けいれん～

熱が出ると、保護者の方が心配されるのは熱性けいれんです。6ヶ月～6歳頃に多く、ほぼ発熱後24時間以内に起こすと言われています。一度熱性けいれんを起こすと、次の発熱時もけいれんを起こすのではないかと心配になりますが、2/3の方は生涯で二度とけいれんは起きないと言われています。「けいれんの予防のため解熱剤を使用すべきか」「熱が出たら早く受診すべきか」という疑問があるかと思いますが、解熱剤の使用の有無、早めの受診は、熱性けいれんの起こしやすさに関係なく、残念ながら熱性けいれんは起きてから対応するしかないのが現状です。手足がガクガクしただけで、けいれんとは言えません。もし、けいれんを疑ったら、明るい部屋でお子さんの様子をしっかりと観察して、その様子を医師に伝えましょう。余裕があれば動画を撮っておかれることをお勧めします。



## 堺市訪問型病児保育センター

サポート会員が利用会員の自宅等を訪問し、病気などのお子さんを保育します。

病児保育施設への送迎も行います。

詳しくはホームページをご覧ください

<http://yurikagonetwork.com/houmon>



## 病児保育室ゆりかご

事前登録は随時受け付けています。

電話受付時間 平日 8:00～18:00

〒599-8247 堺市中区東山 1042

電話/FAX 072-234-6880

<http://yurikagonetwork.com/hoikushitsu/>



次回

休日登録説明会

7月7日(日)

10:30～11:30

(要予約)

